

1,000箇所を超える特別警戒区域

(単位：箇所)

7月24日の市議会災害対策特別委員会では、「上越市における土砂災害警戒区域の指定状況」も明らかになりました。特別警戒区域が市全体で1,042箇所にのぼり、地域別では旧東頸城、旧中頸城の山間部が多くなっています。

橋爪議員は、「避難計画も大事だが、危険個所の整備でも思いきった対策が求められている。急傾斜地、土石流、地すべりの危険個所の整備状況はどうなっているか」とたどしました。これに対して担当課長は、「整備率は、急傾斜地が8.4%、土石流は24.6%、地すべり42.4%となっている」と答えました。

これらの数値は4年前とほとんど変わっていません。

そこで、橋爪議員は、「上越市民にとっては土砂災害は大きな危険のひとつだ。それに行政が立ち向かっていく姿勢が重要だ。土砂災害についてはハード面も含めて本格的な対策を国に

	警戒区域等の指定状況		種別内訳				
	全体	特別	急傾斜		土石流		地すべり
				特別		特別	
上越	277	166	143	120	93	46	41
安塚	262	158	133	123	70	35	59
浦川原	231	126	115	99	69	27	47
大島	160	87	91	68	35	19	34
牧	192	101	111	88	23	13	58
柿崎	198	133	119	102	62	31	17
大潟	2	2	2	2	0	0	0
頸城	41	26	23	22	18	4	0
吉川	159	89	86	71	49	18	24
中郷	8	3	7	3	1	0	0
板倉	103	51	35	24	34	27	34
清里	47	19	17	14	15	5	15
三和	37	23	15	14	15	9	7
名立	111	58	44	40	44	18	23
計	1,828	1,042	941	790	528	252	359

求めるべきだ」と指摘しました。これに対して担当部長は、「私どもも精一杯要望していきたい」と答えました。

県、ヨウ素剤の分散配置認めず

上越市は、14市町村合併時(旧吉川町ではそれ以前)から、市が独自に購入した安定ヨウ素を、剤上越地域医療センター病院など市内10箇所に分散して保管してきました。

このヨウ素剤は、本年2月下旬に使用期限を迎えたため、市では、今後は県の安定ヨウ素剤の配布・服用体制に従うことにしたことが、7月24日の市議会災害対策特別委員会(橋爪議員所属)で明らかにになりました。

その結果、これまでのような市内分散配備は中止され、保管は上越保健所1か所だけになりました。これは重なるのは、UPZ(原発から概ね30km以内)内住民の3回分、UPZ外住民の1回分です。

市によると、「上越市はこれまで通りの場所での分散配備を認めるよう要請してきたが、県は分散配備や住民への配布方法を検討しつつも、原発から5kmを

超える地域のすべての住民分は、各地域の保健所等に配備することとして譲らなかつた」とのことです。

面積が973平方kmもある上越市では、重大事故が発生した際に必要な住民への配布が間に合う保障はありません。同委員会で橋爪議員は、「これではいざというときに間に合わない。また、住民は安定ヨウ素剤が身近にあるということで安心感を持ってきた。早急に県に働きかけてなおし



県消防大会で上越市の2分団 大健闘

←上越方面隊第3分団の入場行進

7月29日に胎内市で行われた「第69回新潟県消防大会ポンプ操法競技会」では、上越市から小型ポンプ操法に吉川方面隊尾神分団、ポンプ車操法に上越方面隊第3分団がそれぞれ出場し、猛

暑の中、見事な操法を披露しました。

惜しくも上位入賞は成りませんでしたが、それぞれ大健闘しました。なお、各部門とも第1位は長岡勢がしました。

日本共産党上越市議員団ニュース
 No.598 2018年8月5日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
 絡 橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
 先 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)



てもらいたい」と訴えました。これに対して市当局は、「我々は指をくわえていたわけではなく、県には強く要求していく」と答えました。